

令和7年度 学校努力点

1 主題

「やってみたい」をやってみよう！学びの主人公に、わたしは、なる！

2 主題設定の理由

令和3年1月26日に公表された中教審答申『令和の日本型学校教育』の構築を目指して」では、2020年代を通じて実現すべき「令和の日本型学校教育」の姿として、『個別最適な学び』が進められるよう、これまで以上に子供の成長やつまずき、悩みなどの理解に努め、個々の興味・関心・意欲等を踏まえてきめ細かく指導・支援することや、子供が自らの学習の状況を把握し、主体的に学習を調整することができるように促していく」ことが求められるとしている。また、令和5年9月に市教委から出された『ナゴヤ学びのコンパス』では、「子どもは『有能な学び手』であると信じ、教師は子どもの学びに伴走する」ことが大切であると、子ども中心の学びを推し進めていく方針が掲げられた。

本校では、昨年度より、『「やってみたい」をめあてに変えよう！学びの主人公に、わたしは、なる』を主題として、3カ年計画の研究に取り組み始めた。「児童の自発的な学習の習慣化」を目指し、初年度にあたる令和6年度は、児童の何気ない気づきを学習の出発点にすることができるようにした。

昨年度の取組の成果は以下の通りである。

① 授業実践

児童が自らめあてを設定することができるようにするために、学習の冒頭で示す資料の提示方法や、動機の付け方を工夫した。これにより、「あれ？」「なんでだろう？」といった学習の出発点となる何気ない疑問を引き出したり、「やってみたい」「考えずにはいられない」といった学習に取り組む必然性を生み出したりした。

② 日常実践

主体的な取組を継続することができるようにするために、全校で自主学習に取り組んだ。これにより、児童は自ら取り組む内容を決め、その分量（程度）を調節するだけでなく、その目的も明確にすることができた。

一方で、以下のような課題が見いだされた。

① 授業実践

自らのめあてを達成するための、「調べ方」「試し方」「練習の仕方」「課題解決の仕方」などが分からなくなってしまう児童や、めあてからずれていってしまう児童が見られた。

② 日常実践

自主学習への取組が活動ありきのものになってしまったことで、その内容や取り組み方を十分に振り返り、次の自主学習に生かすことのできる児童は少なかった。

このような実態を踏まえ、2年目にあたる本年度は、主題を『「やってみたい」をやってみよう！学びの主人公に、わたしは、なる！』として、児童が自らの学び方を考えて実行したり、自らの学びを振り返ったりさせていく。この機会を充実させることで、児童がめあて（ゴール）の達成に向けた見通しをもつことができるようにしたり、自他の取組やその努力の価値付けを行ったりしていき、「児童の自発的な学習の習慣化」が達成されるようにする。

3 具体的な推進計画

(1) 研究の基本的な進め方

① 実態把握と分析、指導方法の検討

- ア. 児童の基礎学力や学習に対する姿勢など、年度当初の実態を把握する。
- イ. 把握した実態を分析し、目指す児童像（求められる姿）を設定する。
- ウ. 目指す児童の姿に迫るための手立て（指導方法）を検討する。

② 研究

授業研究と日常研究を並行して行い、「児童の自発的な学習の習慣化」の達成を目指す。

○ 授業研究

「なかまなビジョン」「ナゴヤ学びのコンパス」などを踏まえ、児童が自らめあてを設定し、その達成に向けて主体的に取り組むことができるようにする。

《研究の進め方》

- ・ 全ての学級担任および希望する職員は、前期と後期のどちらか1回、公開授業を行うものとする。また、学年内で公開時期が偏ることがないようにする。なお、公開授業を行う際には、各学年部会（2学年研究会など）で事前に検討し、それを踏まえて作成・修正した学習指導案（略案）を、授業予定日の3日前までに全職員へ配布する。
- ・ 公開授業日の児童下校後に、手立ての有効性を検討するために、15分以内の事後検討会を行う。参加者は、校長・主幹教諭・教務主任・該当の2学年部会の教諭・その他の希望者とする。
- ・ 希望者の中から代表授業者を1名決める。後期の現職教育（9月11日）で模擬授業を行い、学習指導案を検討する。代表授業の学習指導案は細案とし、第1稿を模擬授業予定日の3日前までに全職員へ配布する。また、模擬授業を踏まえて修正した最終稿を、授業予定日の3日前までに全職員へ配布する。
- ・ 各部会で1名以上、ナゴヤ・スクール・イノベーション等の公開授業を参観し、得たものを各会（打ち合わせや現職教育など）において全職員に向けて伝達する。

○ 日常研究【自主学习】

児童が自らめあてを設定し、その達成に向けて取り組む機会を設け、これを年間通して継続することで、「児童による自発的な学習の習慣化」を目指す。授業の合間の学習や宿題として取り組ませても構わない。

《研究の進め方》

- ・ 児童が自らのめあてを設定し、それを振り返る機会を充実させることで、自発的な学びが習慣化（持続）するようにする。
- ・ 自主学习は、各2学年部会で取り組み方や使用する用紙の形式を統一する。
- ・ 研究で使用したデータや写真などは、努力点フォルダ（各学年別）に保存し、次年度以降へ引き継ぐ。

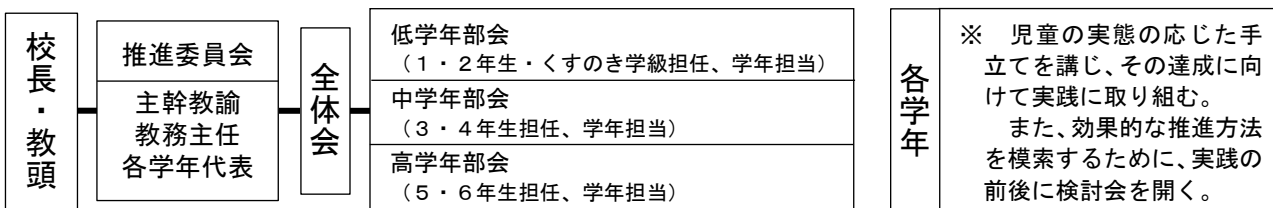
(2) 研究の成果・課題の把握と改善策の検討

年間2回（中間・最終）作成する報告書では、各学級の取組の様子や成果・課題について全職員が把握することができるようにする。（伝達が中心となる報告会は行わない）

(3) 保護者の理解を啓発するための情報発信

研究の様子は、各種たよりや懇談会などの機会を通して保護者への周知・理解を図る。授業参観において各学年の取組を公開したり、成果を披露したりしても構わない。

4 推進組織



※推進委員会：年間計画や研究の推進方法、全体会の在り方や報告書の形式などについて話し合う。

5 各学年の推進計画

児童が自らの学び方を考えて実行したり、自らの学びを振り返ったりさせるための手立てを講じることとし、中間・最終報告書の中で、講じた手立てによる児童の変容について、端的に説明をする。(推進計画などの年度当初の報告は不要)

6 推進計画（令和7年度）

期	日付		話し合いの場	具体的な推進活動
前期	4月3日	木	推進委員会①	・ 今年度の方向性、推進方法を確認
	4月8日	火	全体会①	・ 今年度の方向性、推進方法を伝達 ・ 前期の授業研究期間（5/12～7/11）における公開授業予定日の報告を依頼（締切 4/25）
	4月14日	月	低・中・高学年部会	・ 各学年・部会の推進計画について意見交換
	適 宜		低・中・高学年部会	・ 公開授業の事前検討会 ・ 公開授業の事後検討会（応接室にて、努力点主任と授業参観者は参加、原則当日の授業後）
	7月7日	月	推進委員会②	・ 中間報告書の作成、提出の依頼（締切 9/12） ・ 提出された報告書の内容を確認・修正を依頼
	9月19日	金	職員打合せ	・ 中間報告書（PDF 形式）の周知 ・ 後期の授業研究期間（9/22～12/19）における公開授業予定日の報告を依頼（締切 9/26）
後期	適 宜		低・中・高学年部会	・ 公開授業の事前検討会 ・ 公開授業の事後検討会（応接室にて、努力点主任と授業参観者は参加、原則当日の授業後）
	9月11日	木	現職教育	・ 代表授業の事前検討会（模擬授業）
	10月6日	月	代表授業・全体会②	・ 代表者による授業（原則参観） ・ 事後検討会（職員室にて）
	12月18日	木	推進委員会③	・ 最終報告書の作成、提出の依頼（締切 1/16） ・ 提出された報告書の内容を確認・修正を依頼
	1月23日	金	職員打合せ	・ 最終報告書（PDF 形式）の周知
	3月6日	木	推進委員会④	・ 次年度の方向性、推進方法を検討
	3月末まで 校内決裁を受ける		(教務主任作業)	・ 次年度の方向性、推進方法を考案し、校内決裁を受ける。

【小碓小学校努力点のイメージ図】

